

「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校 50.9%, 県 50.2%)

対県比 101.4 %

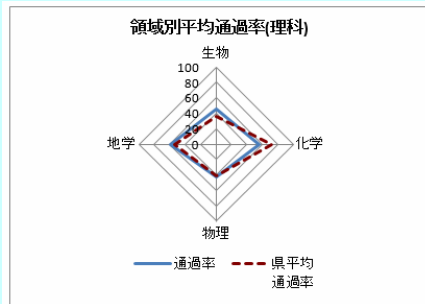
学力定着実態調査 本年度正答率

本校 62.0%  
全国 66.0%

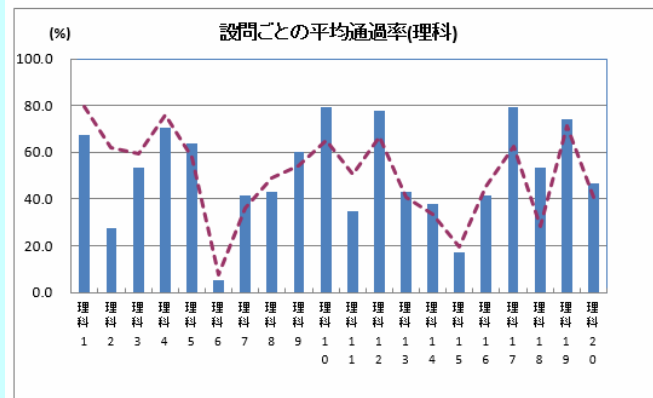
対全国比 93.9%

本年度の結果について

領域別平均通過率



設問ごとの平均通過率



全国学力・学習状況調査 本年度正答率

A問題

本校 53.7%  
全国 53.0%  
県 52.2%

B問題

本校 %  
全国 %  
県 %

○全体的な傾向  
・タイプⅠは51.1%、タイプⅡは50.4%の通過率となっている。基礎的・基本的な内容、基礎的・基本的な知識・技能を活用する内容ともに課題がある。生物分野は比較的通過率が高く、化学分野の通過率が低い。  
○昨年度の課題への取組の成果  
・昨年度、タイプⅠは58.3%、タイプⅡは50.6%で活用する力に課題があったが、課題解決型の授業を取り入れることで、今年度はタイプⅠとタイプⅡの差が小さくなった。

重点課題

【課題1】「基礎・基本」定着状況調査

○気体の捕集方法の理由を考える問題に課題がある。  
誤った理由を答えた生徒は70.7%であった。  
(通過率 本校 27.6% 県 62.1%)

【課題2】全国学力・学習状況調査

○天気図から風力を読み取る問題に課題がある。  
天気の記事から風力を読み取れない生徒がいる。  
(通過率 本校 40.0% 県 74.5%)

重点課題に対応した改善指導内容及び方法 (授業)

【課題1】「基礎・基本」定着状況調査

○実験・観察を行うときには、その目的を意識させ、自分の考えや予想をもとに計画を立てる授業をできるだけ多く取り入れていく。

【課題2】全国学力・学習状況調査

○知識を詰め込むのではなく、日常生活と関連づけて考えさせたり、繰り返し学習や課題をやりきらせたりすることで、基礎・基本の定着を図りたい。

「基礎・基本」定着状況調査	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法		1, 2年・中間テスト (タイプⅡ対応問題)		1, 2年・期末テスト (タイプⅡ対応問題)	1, 2年標準学力調査 (活用)	1年・H26「基礎・基本」	1年・学年末テスト (タイプⅡ対応問題)
目標値		60%		60%	70%	60%	70%
実施後数値		実験・観察の目的を意識させる学習		実験・観察の結果予想を基に計画を立てる学習		理科用語を用いて、仮説や実験・観察の結果を説明させる学習	

全国学力・学習状況調査	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法		3年・中間テスト (全国学力対応問題)		3年・期末テスト (全国学力対応問題)		2年・H27「全国学力」	2年・学年末テスト (全国学力対応問題)
目標値		60%		60%		60%	70%
実施後数値		事項を日常生活と関連づけて考えさせる学習		繰り返し学習や課題をやりきらせる学習		理科用語を用いて、事項と日常生活との関連を説明させる学習	